



## 瀬棚町閉町にあたっての「あいさつ」

# 新しい活力あるまちづくり、 新たな歴史づくりに向かって

## 「せたな町の未来を見つめて…」 瀬棚町閉町にあたって

瀬棚町長 平田泰雄

「瀬棚町」から「せたな町」へ。平成17年9月1日、いよいよその時を迎えます。

明治13年、「瀬棚」が誕生して125年余り。先人が幾多の困難に耐え、築き上げてこられたその輝かしい歴史に幕を下ろし、新町「せたな町」がスタートいたします。

平成の大合併として、全国各地で練り上げられました合併論議の中にあつて、瀬棚町・北檜山町・大成町の檜山北部3町は、単に時代の流れとしてではなく、少子高齢化の急速な進展や地方分権・道州制による市町村への大規模な事務・権限移譲など、その受皿となる基礎自治体の将来における果たすべき役割を強く認識し、

将来のあるべき姿をしつかり見据え、新しいまちづくりを目指すこととなりました。

瀬棚町125年の長い歩みを顧みるとき、その時代を生き抜いてこられた先人の英知と、たゆまぬ努力によって築いたすばらしい歴史の数々が甦つてまいります。幾多の試練に耐え、厳しい風雪にもめげず開拓の志に燃え、未開の海へ、未踏の大地へと果敢に挑まれたその夢と情熱は確実に次の世代へと引き継がれてまいりました。この貴重な緑の野山と世界につながる海を遺された先人の偉大な功績にあらためて敬意と感謝を捧げます。そして今、訪れる新たな時代に思いを馳せるとき、これ

まで以上に健康に包まれ、明るく、やさしく、豊かで活気に満ちたまちであるとともに、ふるさとに誇りをもち、みなさんが力を合わせ支えあい共に歩むことが、先人の思いと汗が目指した夢に報いるものと信じております。

その道のりは決して穏やかではありませんが、私たちはこの道を選びました。しかし、3町の町民の和をもってすれば、必ずや新しい活力あるまちづくり、新たな歴史づくりができるものと信じております。

遠くの景色を眺めるように、過ぎてきた「とき」を振り返りながら、新たな歴史が始まるこの「とき」に、その瞬間を迎えることの言葉では言い尽くせない思いを胸に、これから創り上げる新たなまちの歴史の中の一人としての喜びと誇りを心に留め、これまでに取り組んできた時代を先取りした小さなまちの大きな挑戦のさらなる継続と、その経験を財産として活力として、新しいまちづくりに活かしていかなければなりません。まちの形が変わっても、私たちの「まち」は永遠に続いていきます。そこに人々が住んでいる限り。この「まち」を愛する人がいる限り。

最後に、これまで瀬棚町政の執行にあたり深いご理解とご支援をいただきました町民皆様はじめ議会、関係機関に対し、改めまして感謝とお礼を申し上げますとともに、ご健康とご多幸をご祈念申し上げます。瀬棚町閉町にあたっての「あいさつ」といたします。

新町「せたな町」の未来に、限りなく大きな夢を見つめて。



# 回 帰

瀬棚町議会議長 柳田 眞

日本人で5人目となる宇宙飛行士の野口聡一さんが搭乗した宇宙連絡船「デイスカバリー」が宇宙開発計画の重要な任務を終えて無事帰還との報は、宇宙にうとい私でも喜ばしい思いでいっぱいです。

そして今、「歴史は繰り返す」という言葉を思い出しながら、宇宙への飽くなき挑戦も私たちが合併をして進む自治体も歴史の中で繰り返して、巡り返して元の姿に帰る「回帰」の流れかと考えております。

たどれば明治13年、瀬棚町の戸数127戸、人口661人をもって戸長役場を開庁以来、29年には、戸数1千390戸、人口6千307人となり、翌30年には4つの病院が開業し、その中の一医院は診療所の名称ともなった日本女医第一号の荻野吟子先生の「荻野医院」も含まれているとあります。

大正10年、町制施行により瀬棚町となり、大きく発展の道を歩んできましたが、漁業を基盤とする瀬棚は、現在のように漁具、漁船なども満足できるものではなく、昭和にかけては漁船、貨物船などを含めて遭難事故なども数多く、苦労の連続であったと思われ

また、行政、議会におきましても、昭和22年の公職選挙法施行後初の選挙以来、議会では私を除く12名の方々が議長として、行政とともに大きな力量を発揮されました。昭和26年から30年、そして42年から58年までは北海道議会議員として3人の方々が当選させるなど、政治的実力をいかななく発揮されました。しかし、その間には町議会の解散、合併協議の否決など、苦難の道のりも数多く、今私たちが

あるのは、歴代先輩のご苦勞と、町民皆さまのご理解、ご協力のおかげと厚くお礼申し上げます。

9月1日、開基125年、昭和の大合併が至難となつて50年を



昔の役場庁舎 (今の郵便局の場所)



昔の議会風景 (今の郵便局の場所)



馬場川小学校落成記念

# 子どもたちの将来に大きな夢と希望を

瀬棚町教育委員長 工藤芳江

平成の大合併と言われ、国の政策により進められてきた檜山北部3町の合併の日も目前となりました今日でございます。

これまで、児童生徒の健全育成のため、地域の皆さまのご支援ご協力に對しまして、心より感謝とお礼を申し上げます。瀬棚町はかつて、ニシン漁で港から栄え、先人の幾多の困難の中から築き上げられた125年あまりの歴史のある町であります。学校関係につきましましては、明治12年、元浦(梅花都)の地区に瀬棚学校が建設され、翌年開校されておりました。さらに、明治17年、

白岩地区に島歌小学校が新築開校され、瀬棚小学校は明治22年、瀬棚学校の分校となりましたが、やがて明治25年に分校を本校とし、従来からの本校を分校として、指導に活用しておりましたが、明治34年、それぞれの分校は独立して尋常小学校と改称されておりました。馬場川小学校は明治39年、簡易教育所として開校しておりました。その後、さらに中学校を併置したり、学校建設地域の移転などを行ったりまた、学校名(尋常)

を改めたりしながら、各学校は相当数の児童生徒の教育が行われておりました。児童数の減少で、須築小学校、美谷小学校、梅花都小学校の廃校もされましたが、昔と違って交通機関の利便性もあり、父兄の皆さまにはご心配をおかけしていることと思われませんが、統合により子どもたちの学習の場は補てんされ今日に至っているところであります。

新町「せたな町」となりましても、子どもたちをとりまく教育環境(学校教育)は変化することなく、たくましく心豊かな「せたなつ子」を育み、そしてより以上の成長、進展を願っております。また、社会教育面でも新しい取り組みにより、ますますの発展を期待しているところであります。

活力のある町、魅力のある町となり、子どもたちの将来にも大きな夢と希望を抱ける町となりますよう、切に望み、皆さまと共に新しいまちづくりの第一歩を踏み出そうと思っております。閉町に際しましてのご挨拶に代えさせていただきます。